

食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

○微生物・プリオン・自然毒—ウイルス

論文「ノロウイルス遺伝子型 II.4 の新型変異株出現に伴う 2012 年後半の世界的なノロウイルスの活動の増加の兆候」

公表日：2013/1/3 情報源：Eurosurveillance

<http://www.eurosurveillance.org/ViewArticle.aspx?ArticleId=20345>

Eurosurveillance¹⁾ (Volume 18, Issue 1, 03 January 2013)に掲載された論文「ノロウイルス遺伝子型II.4の新型変異株出現に伴う2012年後半の世界的なノロウイルスの活動の増加の兆候」(著者:J van Beek(オランダ国立公衆衛生環境研究所)ら)の概要は以下のとおり。

2012年後半、英国、オランダ及び日本において過去の同時期に比べてノロウイルスの活動が増加していることが、ノロウイルスの疫学サーベイランスシステム及び検査機関サーベイランスシステムによって明らかとなった。同様に、豪州、フランス、ニュージーランドでも増加している(データ非公表)。11月29日、12月4日及び6日付けのProMed²⁾では、英国イングランドにおいてノロウイルスの院内集団感染が急増したこと、英国イングランド及びウェールズにおいてノロウイルスの患者数(院内感染及び市中感染)が(前年の同時期に比べて)64%増加したこと、日本においてノロウイルスが関連して高齢者が死亡したことが報告されている。

豪州、フランス、ニュージーランド及び日本からNoroNet³⁾のデータベースに登録された今シーズン最初の分子データから、この増加がノロウイルス遺伝子型II.4(GII.4)の新型変異株の出現と関連していることが示された。当該変異株は2012年3月に豪州から初めて報告され、塩基配列がGenBank⁴⁾に登録された。Sydney2012と名付けられた当該変異株による集団感染が、米国において2012年9月に5件、11月に37件確認されている。ベルギー(2012年9、12月)及びデンマーク(2012年11月)でも当該変異株が確認されている。

Sydney 2012は、ノロウイルスGII.4の優勢な変異株であるApeldoorn_2007及びNewOrleans_2009と共通の祖先をもつが、系統発生的には異なる株である。Sydney 2012を構成しているたん白質のうち、P2ドメインに位置する主要エピトープ(訳注:抗原決定基)にアミノ酸変化がみられているが、この変化は以前の流行時にも観察されている。当該変異株は、この変化によって集団免疫⁵⁾を回避するとみられ、観察されている集団感染事例の増加の理由を説明することができる。

ノロウイルス感染事例の増加とSydney 2012の関連性を確認するためには更なるデータが求められる。保健医療施設においては、深刻なノロウイルスシーズンに対する備えを推奨する。厳重な衛生措置、感染患者の隔離などの集団感染管理措置が、集団感染の規模縮小の一助となる。

- 1) Eurosurveillance：欧州疾病予防管理センター（ECDC）が発行する学術雑誌
- 2) ProMed：国際感染症学会（ISID）が運営する感染症情報提供サイト（<http://www.promedmail.org/>）
- 3) NoroNet：ノロウイルスに関する世界的ネットワーク（<http://www.noronet.nl>）
- 4) GenBank：米国生物工学情報センター（NCBI）が運営する公共の塩基配列データベース
- 5) 集団免疫：ある集団全体の免疫力。ある集団が一定レベルの免疫状態を維持しておくことで、万が一病気が発生したとしてもまん延を予防することができる。

○関連情報

食品安全委員会：ノロウイルス食中毒の予防のポイントをホームページに掲載（平成24年11月27日付け）

- ・ノロウイルスによる食中毒や感染性胃腸炎は特に冬に流行するとされています。
- ・ノロウイルスは手指や食品などを介して感染し、おう吐、下痢、腹痛などを起こします。特にこどもや高齢者は健康な成人よりもノロウイルスに感染した場合、重篤化しやすいので注意が必要です。
- ・ノロウイルスによる食中毒を防ぐには、「加熱」「手洗い」「消毒」をしっかりと行いましょう。

<http://www.fsc.go.jp/sonota/shokutyudoku.html#6P>

厚生労働省：

①自治体向け通知「感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの予防啓発について」（平成24年11月13日付け）

地域住民や社会福祉施設等に対し、感染予防対策の啓発に引き続き努めるよう依頼

http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/gyousei/dl/121113_1.pdf

②自治体向け通知「ノロウイルスによる食中毒の発生予防について」（平成25年1月11日付け）

平成24年12月のノロウイルスによる食中毒患者数が過去5年間の同月比で最多（速報値91件、6,082名）となつてい
る中で、大規模食中毒の原因と対策を示すと共に、大量調理施設に対して引き続き監視指導の徹底を依頼

http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/gyousei/dl/130115_1.pdf

国立医薬品食品衛生研究所：ノロウイルス遺伝子型 GII/4 2012 変異株の検出状況

2012年に初めて検出されたノロウイルスの遺伝子型 GII/4 2012 変異株(仮称、Sydney/NSW0514/2012/AU(JX459908)類
似株)は、これまで31都道府県で検出が確認されている(2013年1月11日現在)。

<http://www.nihs.go.jp/fhm/fhm4/fhm4-nov901.html>

厚生労働省：食中毒統計

ノロウイルスが原因の食中毒発生状況

平成23年 発生件数296件、患者数8,619名（同年12月 68件、2,798名）

平成22年 発生件数399件、患者数13,904名（同年12月 50件、1,583名）

平成21年 発生件数288件、患者数10,874名（同年12月 82件、2,709名）

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/index.html

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム (<http://www.fsc.go.jp/fscis/>) をご覧下さい。